

阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会の開催概要

『阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画 [平成25年3月]』策定後、計画に位置づけた河川下水道対策や雨水を貯留・浸透させる流域対策、被害を軽減させる減災対策について、県・市及び住民が相互に連携を図りながら取り組んできた。本計画の進捗状況については阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会（以下「協議会」という。）へ適宜報告することにしており、昨年度末に第3回協議会を開催したことから、その結果について報告する。

1 開催日時

平成26年3月19日（水） 15:00～17:30

2 開催場所

尼崎市中小企業センター 1F 多目的ホール

3 会議結果

1) 主な会議内容

①阪神西部地域における県・市・住民の取組状況について

- ・河川下水道対策
県の河道整備や堤防強化工事、市の雨水幹線整備 など
- ・流域対策
校庭貯留整備、雨水貯留タンク助成、流木対策の治山ダム整備 など
- ・減災対策
防災出前講座や防災講演会の状況、手づくりハザードマップの作成状況、職員防災研修会の開催、防災用無線の整備、防災訓練の状況 など

②指定施設の状況について

- ・2校の雨水貯留浸透施設を指定（H25.4.19 県立宝塚東高校、県立阪神昆陽高校）

2) 委員の主な意見

①流域圏市委員

- ・まち歩きやハザードマップづくりの講座開催など今後も継続実施していきたい。
- ・地域防災マップを避難訓練で活用するなど、地域の防災活動において有効活用されており、今後も取り組みを進めていく。
- ・開発者に対して雨水のトレンチや浸透ます等の設置を依頼。今後も継続していく。
- ・防災対策としての市民への出前講座など、引き続き取り組んでいく。
- ・防災行政無線の整備や雨量計の増設などに取り組んでいきたい。

②県民委員等

- ・市条例を活用した災害時要援護者支援の取り組みに着手。今後要援護者のマップを作成していく。

- ・大きな出水における下流域での土砂堆積防止のためには上流域での土砂流出抑制が必要でないか。
- ・防災に対する意識・知識向上を目指し、福祉施設も組み入れた福祉防災マップを作成。
- ・増水時には安全性の高いマンションに避難できるように、各管理組合に依頼・了解を得るとともに、地域住民にも周知を図っている。
- ・武庫川沿川の自治会単位で防災マップを作成し、減災対策の意味を住民と一緒に理解し、広めていきたい。
- ・要援護者に対する救済の手段が、今後の大きな課題となるのではないかと考えている。
- ・地域住民一人一人が自分たちの地域の危険箇所を確認し、自助として出来ることを認識しておく必要があり、自治会や自主防災会と連携して地域住民の意識を高めることが必要でないかと考える。

③関係団体委員

- ・耕作放棄地が増えており、貯留機能が発揮されなくなるため、耕作放棄地の減少に取り組んでいきたい。
- ・森づくりに対して、市単独でも熱心に取り組まれているため、組合でも市民の模範になるようなことに取り組んでいきたい。
- ・住民一人一人が防災意識を持って、災害に対応せざるを得ない時期に来ている。地域住民が自分たちの手でハザードマップを作成することが、命を守る一番の近道でないかと考える。

【参考】阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画に位置づけた主な取り組み

1) 河川下水道対策（治水対策）

戦後最大（S36年）規模の洪水を対象に、下流部築堤区間の河道整備をはじめ、堤防強化、新規遊水地整備、青野ダムの洪水調節容量拡大等を実施

2) 流域対策

校庭・ため池等で約64万m³の雨水貯留（効果量：甲武橋30m³/s）に取り組むとともに、利水ダム（千苧ダム等）の治水活用を検討

3) 減災対策

自治会主体の啓発活動や津波避難ビルの洪水時活用等を新たに推進

